



公益財団法人

みらいファンド沖縄

多様な参画で実現する 支援される側の尊厳を守る 新たな食支援事業

公募のお知らせ

グレーゾーンにもリーチし、
被支援者から担い手にもなり得る有償型パントリー

当財団では、休眠預金を活用した事業として、『多様な参画で実現する支援される側の尊厳を守る新たな食支援事業』の公募を開始します。

今後随時、更新情報をWEBサイトにアップしていきますのでご確認ください。



公益財団法人

みらいファンド沖縄

実行団体 募集説明会

多様な参画で実現する支援される側の尊厳を守る新たな食支援事業
～グレーゾーンにもリーチし、被支援者から担い手にもなり得る有償型パントリー～

本日のプログラム(14:00~16:30予定)

1. 当財団について

2. JANPIAと休眠預金事業について

3. 事業の背景

4. 「多様な参画で実現する
支援される側の尊厳を守る新たな食支援事業」について

(休憩10分)

5. 申請方法と選定までの流れ
(JANPIAが実行団体に求めること)(積算の手引き※)

6. 質疑応答

1.当財団について

1.当財団について:組織概要

名称	公益財団法人みらいファンド沖縄
英名	Mirai Fund Okinawa Inc.Foundation
設立年月日	2010年4月23日
公益認定日	2011年4月1日
事業年度	毎年4年1日から翌年3年31日
代表理事	小阪 亘
設立経緯	93名の市民のみなさまから設立拠出金300万円を募り設立した「市民立」財団*
住所	〒903-0824 沖縄県那覇市首里池端町34 2F首里スタジオ内
加盟団体	一般社団法人全国コミュニティ財団協会 一般社団法人全国レガシーギフト協会



*

設立時拠出金に寄付くださったみなさま
(五十音順・敬称略)

秋葉 武 / 新井 裕子 / 新垣 八重子 / (有)新垣ちんすこう菓子店
有井 安仁 / 東濱 克紀 / 認定NPO法人アンビシャス / 石原 達也
今津 新之助 / 岩田 直子 / (株)エフエム那覇 / (株)エフエム21
遠藤 聡志 / 大城 逸子 / 大城 喜江子 / 大城 幸代 / 大城 成信
大城 武久 / 大見謝 恒章 / NPO沖縄シニアの会 / 川北 秀人
菊之露酒造(株) / 金城 嘉志 / 金城 和光 / (株)クレイ沖縄
古我知 浩 / 小阪 亘 / 小橋川 繁 / 小松 かおり / 呉屋 貴司
佐久間 愛弓 / 下地 美香 / (特活)首里まちづくり研究会
佐脇 広平 / 新開 育恵 / 新星出版(株) / 杉浦 幹夫 / 関口 宏聡
税理士法人添石総合会計事務所 / 添石 幸伸
(特活)ソーシャル・デザイン・ファンド / 平良 斗星 / 平良 恵津子
地球情報エージェント(株) / 知花 茂 / 知念 金徳
(特活)ちゅらしまフォトミュージアム / 當間 愛晃 / 戸田 幸典
渡真利 雅男 / 仲村 一真 / 中村 聡 / (特活)日中文化交流センター
比嘉 司 / 平井 雅 / 福岡 智子 / 前田 比呂也 / 真喜屋 光子
(特活)まちなか研究所わくわく / 松本 哲治 / 宮里 大八 / 宮道 喜一
宮島 さおり / 米野 史健 / 山城 岩夫 / 山城 司 / 与儀 隆一
興古田 清順 / (特活)ライフサポートてだこ / (有)ルーツ / 岩尾 貴広
岩尾 美希子 / 渡邊 真寿美 / 匿名にて寄付くださった方々

(合計93名、300万円)

1.当財団について:大切にしている価値

<https://miraifund.org/about/#a01-2>

1.当財団について:2023年度の主な活動

2023年度の活動ダイジェスト

2022年度の受入寄付額 23,890,560円 (2,042件)
前年度比 △5,816,159円 (△70件)

基金

- 寄付総額 18,074,401円 (1,972件)
 - 2023年度内の採択:第16期たくす 9事業 (びんくばんさぁ・沖縄県女性の翼・若年シングルマザー・子どもの居場所こばんち・一般社団法人サンゴ保全協会・宇宙甲子園沖縄大会・沖縄シュタイナー学園・羽地地区高齢者元気化プロジェクト・沖縄県小中学校歴史教育)
 - カスタマイズ 4事業 (多文化ネットワークfuふ!おきなわ基金、まちなか留学基金、ミマモライド基金、フードバンクオキナワ基金)
 - じぶん基金:4基金 (新崎盛暉平和活動奨励基金、宮里大八国際交流基金、琉球宇温基金、中野五海・篠木あつ子基金)
 - うむさん基金 (Ryukyufrogs基金、エンカレッジ基金、うむさんラボ)、沖縄まちと子ども基金、沖縄・離島の子どもの派遣基金、首里まちづくり基金、みらいファンド沖縄を支援する基金
 - 寄付募集目標総額 17,250千円 前年度受付寄付総額 23,891千円

助成

- 助成総額 191,251,884円 休眠預金事業含む ※2023年度緊急支援枠を除く
 - たくす:第15期 6団体、第15期 6団体、うむさん基金 2団体 (うむさんラボ、Ryukyufrogs)
 - じぶん基金:新崎盛暉平和活動奨励基金 助成実施 2名、琉球宇温基金 助成実施 2団体

課題解決

- 地域円卓会議が好評! 14回開催・支援
 - 開催場所 (那覇市、石垣市、浦添市、南城市、南風原町、八重瀬町、琉大)
 - テーマ (認知症まちづくり、市町村議会の役割と課題を知る、オンライン職場体験の可能性を考える、八重山圏域インバウンド受入れ、子どもの体験保障に必要な資源、誰でも使える公民館のあり方、沖縄の養豚と食資源循環)
 - 休眠部活円卓会議9本を主催
- 休眠預金活用事業、2023年度緊急支援枠決定
 - 2019年度通常枠:沖縄・離島子どもの派遣基金事業→完了
 - 2020年度コロナ枠:『コロナ禍で孤立したNPOとその先の支援』事業→完了
 - 2021年度通常枠:「見守り自販機を活用した道迷い捜索と地域作り」
 - 2022年度コロナ枠:「みんなの配信プラットフォーム事業」
 - 2023年度緊急支援枠:「多様な参画で実現する支援される側の尊厳を守る食支援事業」



2023年12月16日
寄付と助成のプログラム「たくす」事業報告会



2023年9月22日
認知症まちづくり地域円卓会議in北中城・宜野湾

2. 本事業の助成のしくみ

JANPIAと休眠預金事業について

休眠預金事業 公募説明会

休眠預金事業の概要



2024年4月11日

一般財団法人日本民間公益活動連携機構 (JANPIA)

事業部 プログラムオフィサー 石田

よく使う呼び名・用語など

- **休眠預金**
 - 10年間取引がない銀行等金融機関に預けられているお金
- **指定活用団体**
 - JANPIAという呼び名の方を使う
 - 休眠預金が社会課題解決のために適切に使われるように責任を負う
- **資金分配団体**
 - 本事業においては、みらいファンド沖縄のこと
 - 地域課題解決のための事業を設計し、JANPIAの公募で採択された団体
 - 今回は沖縄県内の食支援のために、休眠預金の中から助成されたお金が適切に使われるように責任を負う
- **実行団体**
 - みらいファンド沖縄の公募で採択された団体のこと
- **PD:プログラム・ディレクター**
 - 本事業の大枠をデザインし、みらいファンド沖縄のPOの統括をする役割
- **PO:プログラム・オフィサー**
 - JANPIAのPOは、みらいファンドが事業を適切に実施できるよう伴走する役割
 - みらいファンド沖縄のPOは、実行団体が事業を適切に実施できるよう伴走する役割
- **MFO:みらいファンド沖縄**
 - 資料などでこの表記を用いることがある

休眠預金の特徴

- **助成金だけではない**
 - POの伴走がある
 - 助成金活用を通して、組織のパワーアップを目指せる

- **3層構造**

- 相互に力を引き出しあえる
 - 実行団体同士
 - 実行団体とMFO
 - MFOとJANPIA
- 点ではなく面で地域コミュニティにアプローチできる

- **事業計画の見直し、更新ができる**

- 助成金申請時と状況が変わったり、予想と異なる進捗度合いがあったりした場合に可能
→より実態に即した事業運営ができる

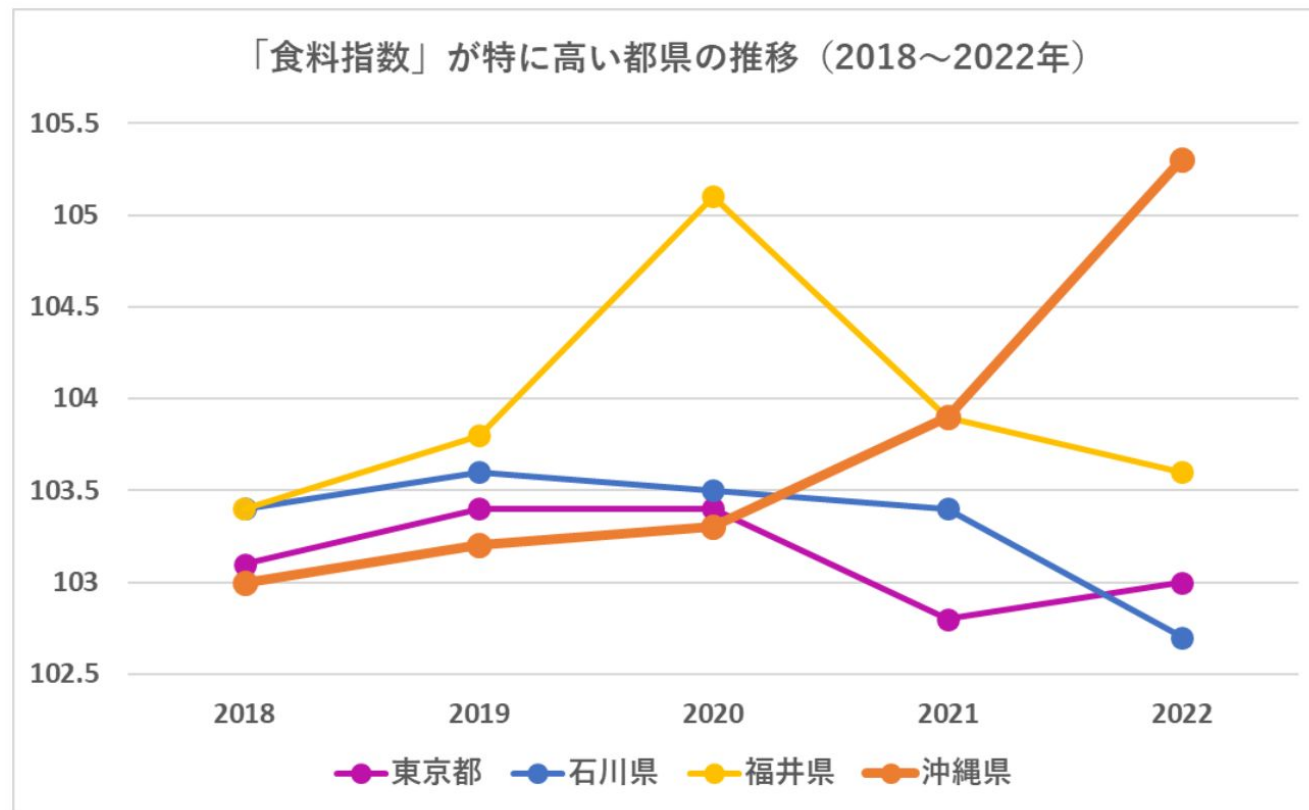


3.事業の背景

今なぜグレーゾーンと尊厳ある食支援なのか

今なぜグレーゾーンと尊厳ある食支援なのか

- 文化配信事業円卓会議(2023年11月)しんぐるまざあずふおーらむ沖縄 秋吉さんの話題提供
 - コロナ過よりも生活の厳しさ顕著
 - そのしわよせが子どもの体験
- 沖縄県子ども調査(2019年)
 - 低所得層Ⅰ/低所得層Ⅱ
- グレーゾーン
 - 非課税世帯・生活保護世帯ではないが「子どもの受診・通院を控える」など緊急性は高い
 - 助けを求められる世帯ばかりか？
- 元気が出る支援なのか？
 - 「選べる」→パントリー、バウチャー
- 食料指数、原油高騰、カロリー不足
- 原油高、穀物を生産していない地域の特性
 - セカンドバーベストの見方「いずれ支援食料は購入することになる」
 - パントリー実施。「1か月1000円の負担となっても利用したい」



出典:総務省、「小売物価統計調査(構造編)」(2018年~2022年)を加工して作成

公募前ワークショップ(3月13日)から

【沖縄県内で食支援をされている4人の方にインタビュー】

①フードバンク型支援:17年

- 「もったいない食品」を生かす
- ニーズは増えているが寄付は減少 →ニーズに応えられない
- 2023年の取扱量は、2022年の半分の量(70トン)
- 県内企業からの寄付伸び悩み

②子どもの居場所支援:2020年から

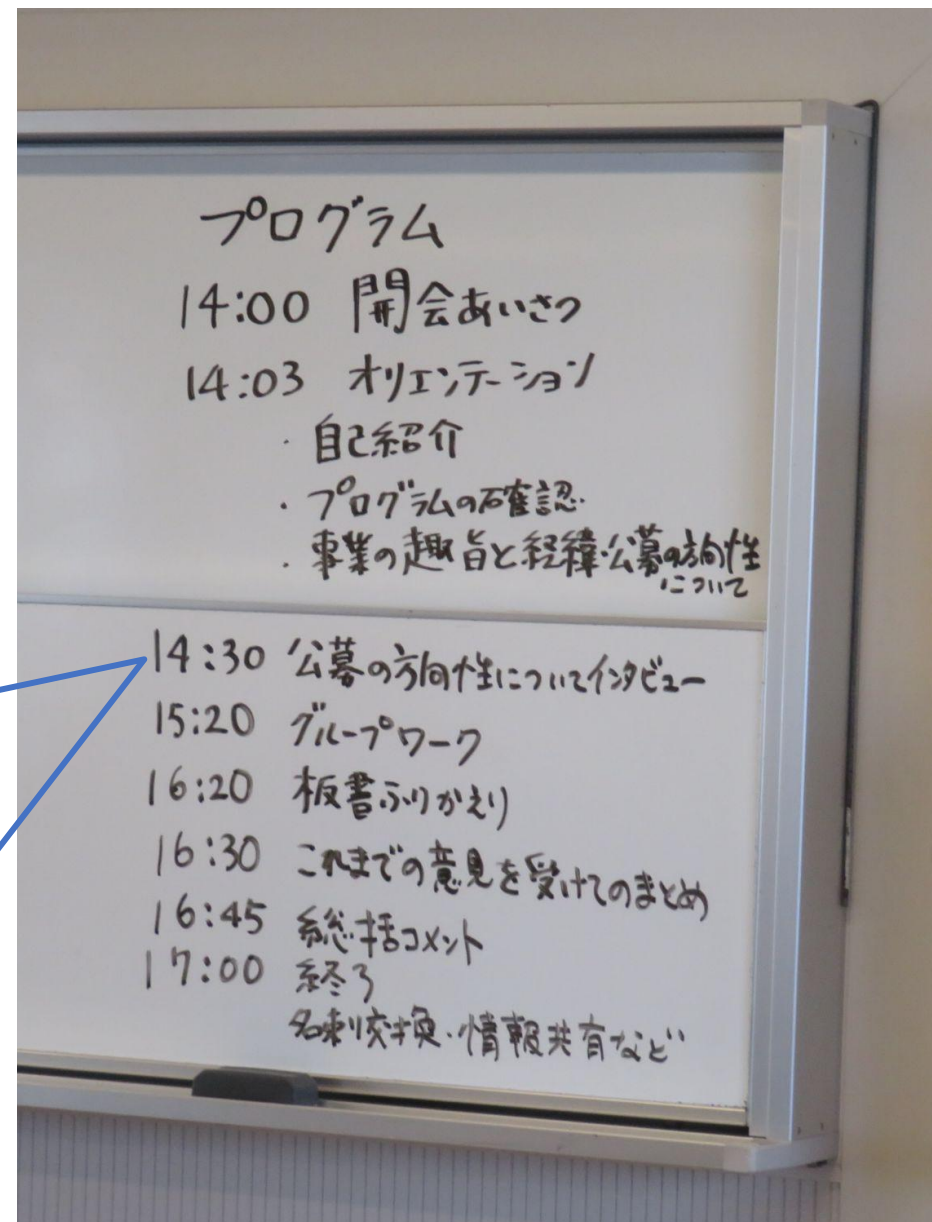
- 県内企業から寄付を集めた(企業は購入して支援)
- 県内3拠点に食糧分配 →子ども食堂 →子どもたち
- 2022年10月から沖縄子どもの未来県民会議助成事業に

③児童センター、母子寮:子どもの食支援は10年前から

- 中高生が児童センターに。「不良少年」は栄養不良
- 多子世帯。子どもながらの遠慮「食べてない」と言えない
- 学校と学童と居場所で連携・役割分担 →食支援と見守り体制
- 役所からの支援を断る家庭も児童センターには取りに来られることも
- お米をもって出るのを他の子に見られたくない子ども
- 「貧困支援」→「子どもサポート」言い換え

④社会福祉協議会

- 生活保護につなぐ前の支援
- お歳暮・お中元からおすそ分けの一人一品運動を 15年継続
手弁当で活動している団体に分配
- 基地や企業からの寄付。「必ず困窮世帯へ」という要望も
- 「困窮者支援」→「食ロス対策」



公募前ワークショップ(3月13日)から

【5チームでグループワーク】

3つの問い:

①「何をどこまで取り組めたら良いか？」

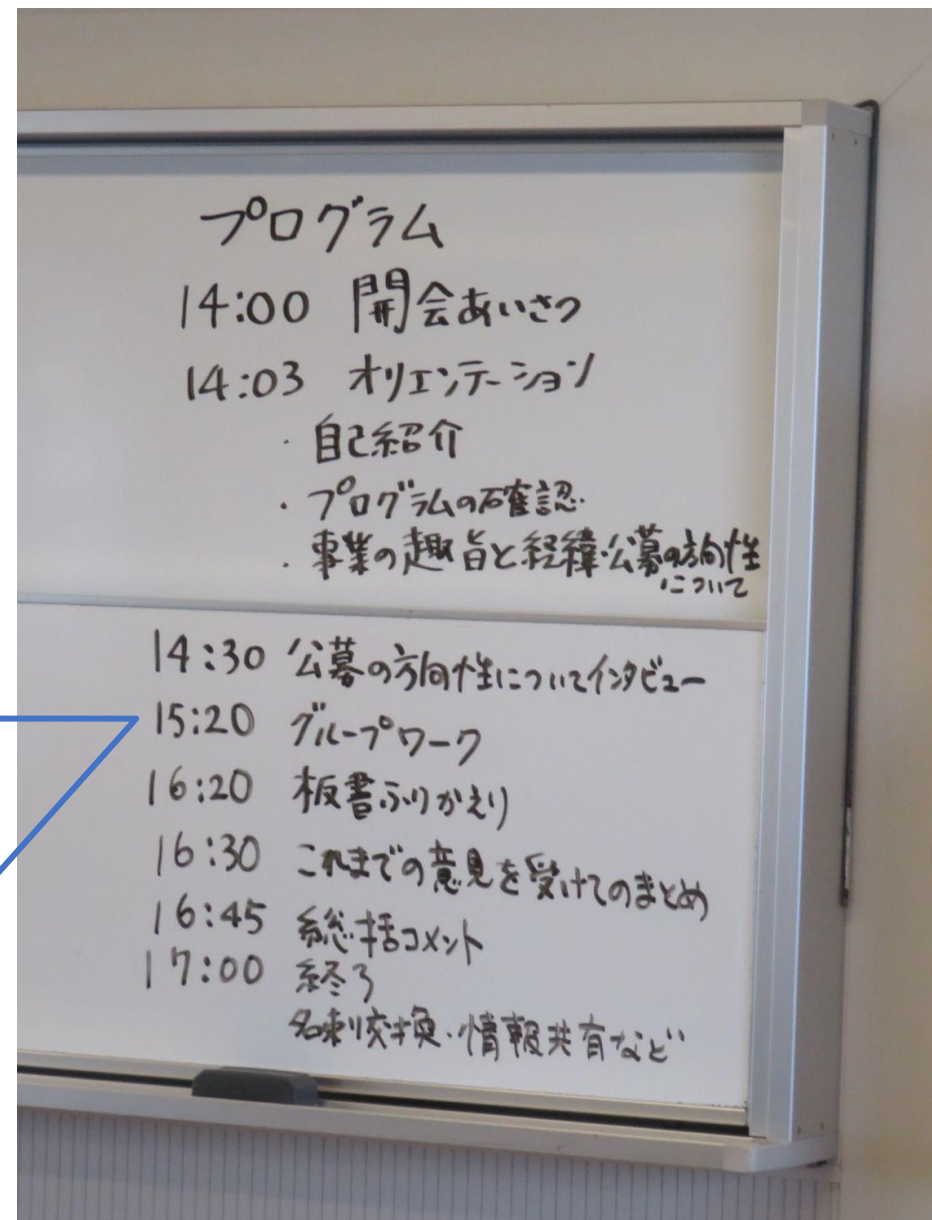
- 行政責任としての領域と、民間としてどこまでカバーするのか(公的支援につなげるまで、など)
 - 民間だからできることもある
- 目の前に食べられていない人がいたら「サポートしない」という選択肢はない
- サポートされる側からサポートする側へも
- 根本的な取り組みが必要

②「グレーゾーンってどんな人？」

- 定義できていないことがわかった
 - 「制度に補足されている人」ではないが何らかの支援が必要な人
 - 「属性」ではなく「状態」。みんなグレーゾーンになる可能性がある
 - 所得だけの問題ではない
- 実態把握はこれから

③「尊厳のあり方、価値・方法を守るために」

- 余りものではなく必要なものを(ニーズに沿う、話を聴く、備蓄食は押し付け)
 - 安全な食の提供、自分で選択・決定できる
- 違和感なく利用しやすい環境の必要性(場所、呼び方)
- 社会につながる、サポートが必要な状態の人の力を伸ばす視点



緊急度合い

- 公募前ワークショップから見えた現状
 - 食品寄付が減っている
 - 食を必要とするニーズは広がっている
 - 余ったものを循環させることの限界
- 「グレーゾーン」の厚みが増している ← コロナ、物価高騰、原油価格高騰
 - 行政の制度補足されていない層
 - 2019年沖縄県子ども調査 低所得層Ⅰ/低所得層Ⅱ
 - 2021年沖縄県子ども調査 貧困線以上ではあるものの、周辺の家帯の状況を把握することを目的に、貧困線の1.5倍の年収にあたる190.5万円でも区分を設けている
- 物価高
 - 可処分所得が下がっている
 - レジャー、子育て環境において余裕がなくなっている
 - 子どもの体験が棄損されている
 - ⇒ メインはアクションリサーチ
 - ※ 単年度事業で、まずは実態把握を目指したい
- 子どものいる家帯だけではないはず
 - 実行団体のみなさんの得意分野に応じた実態把握
- 原油高は輸送費として食品の値段に乗る
 - 沖縄県外からの輸送の課題は認識
 - 県内でできる設備・しくみの改善を(輸送・拠点・情報と食品の共有と融通)

4.事業概要

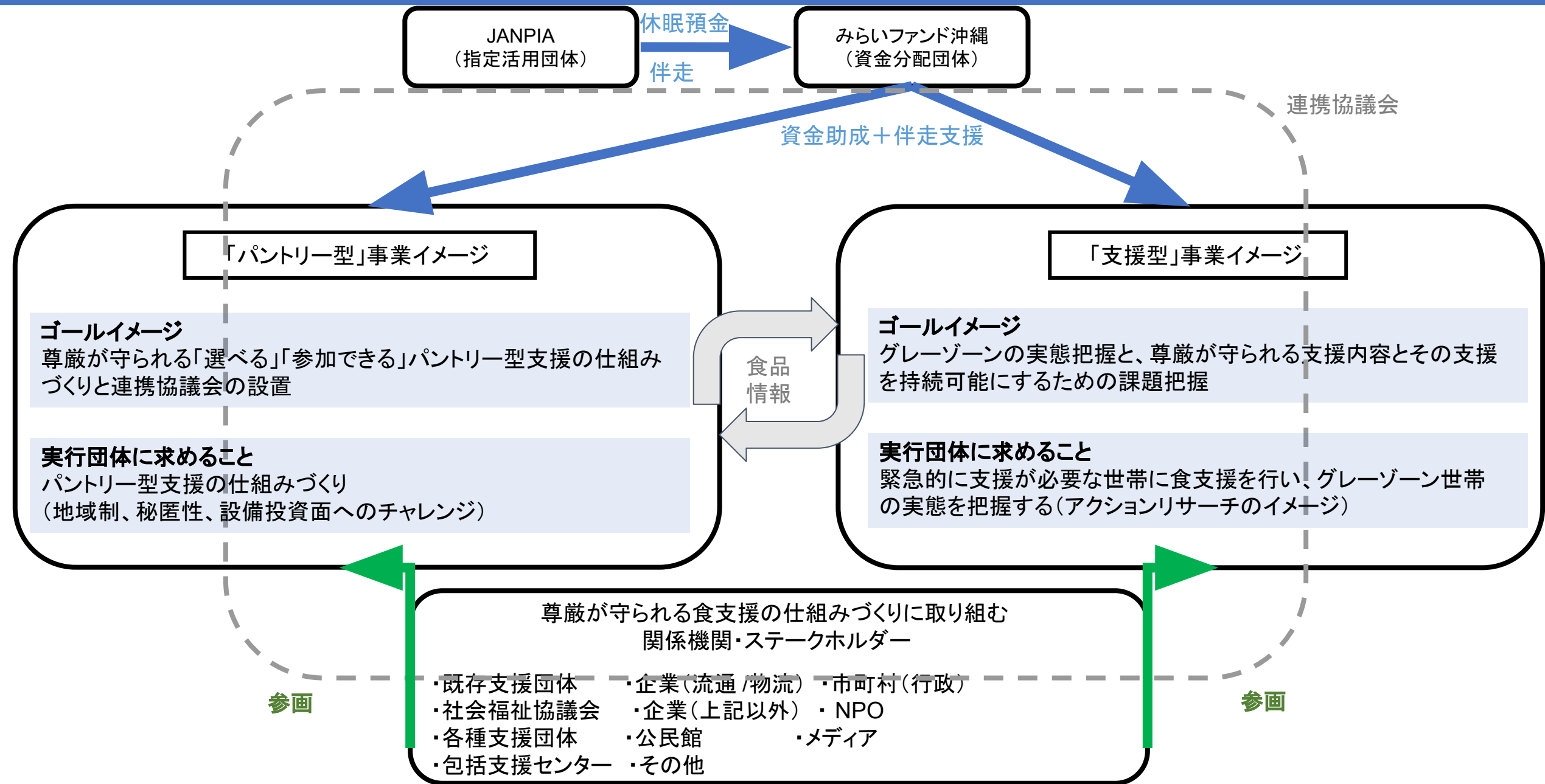
「多様な参画で実現する
支援される側の尊厳を守る新たな食支援事業」について

1人ひとりの尊厳が守られる沖縄のコミュニティづくりのために
沖縄県内の食支援を今より良くしたいと考えているみなさんと

パントリー事業と緊急的食支援(調査がセット)を通して、
「グレーゾーン」の実態把握と制度補足されず不安定な層が
安定して暮らしていけるためのサポートの仕組みづくり

助成事業項目	新型コロナ及び原油価格・物価高騰対応支援枠（JANPIAが定めた資金分配団体公募区分による）	
事業実施地域	沖縄県全域	
事業実施期間	2024年7月～2025年2月	
募集実行団体数	8団体	①フードを中心としたパントリー型支援を行う団体：4団体
		②緊急性の高い世帯を対象とした食支援（実態把握がセット）を行う団体：4団体
助成額	総額1.2億円程度	①型：1実行団体1500～1800万円
		②型：1実行団体500万円
対象	①型 ・現在パントリー支援を行っていて強化・改善したい団体 ・食支援用の食料品の保管・輸送などを行っていてパントリー支援に取り組みたい団体	
	②型 ・沖縄県内で1か月に4回以上の食支援を行っていて利用者へのヒアリングやアンケートに取り組みたい団体	

スキーム図



5.申請方法と選定までの流れ

JANPIAが実行団体に求めること・積算の手引き※

■ 申請方法



Step1: 申請書類提出の前に、フォームよりエントリーを行ってください。

Step2: 「申請に必要な書類(公募要領 P.14)」を
郵送 及び メール(両方必須)にてご提出ください。

- 締め切り: <郵送 及び メール> 2024年 5月 17日(金) 17時 必着
- 郵送先 : 〒903-0824 那覇市首里池端町34 2F(公財)みらいファンド沖縄 宛
- メールアドレス: protectdignity@mirairfund.org

休眠預金事業 公募説明会

休眠預金事業の概要



2024年4月11日

一般財団法人日本民間公益活動連携機構 (JANPIA)

事業部 プログラムオフィサー 石田

■ 資金管理について

- 資金(助成金)管理のルール(積算の手引き P.3)
 - 指定口座において管理します。
 - 指定口座とは、新たに開設した口座で、JANPIAに届けたものをいいます。
 - 開設する際は、**決済性預金口座(無利息預金口座)**であることが必要です。
 - 決済性預金口座にすることで、預金全額が保障されます。
 - 資金の安全な管理に必要です。
 - 指定口座からの支払いは、**振込**または**指定口座に紐付いたクレジットカード**による支払いとなっています。
 - 振込手数料も資金計画作成時には考慮してください。

■ 事業費の構成

【総事業費の概念図】公募要領 P.3

A:助成額	
直接事業費 Aに対して80%以上	管理的経費 Aに対して20%以下

※ ただし、団体の前年度売上(事業費総額)が
助成金額(直接事業費+管理的経費)の上限以上であることを求めます。
(公募要領 P.8)

$$2023\text{年度売上} \geq A:\text{助成額}$$

■ 直接事業費と管理的経費、対象経費について

分類	定義・留意点
直接事業費	<ul style="list-style-type: none">・<u>実行団体による民間公益活動の実施に直接係る活動経費のうち支出に係る証拠書類を提出することが可能な費用です。</u>・助成額の80%以上としてください。 例：謝金、旅費交通費、会議費、会場借料、借料損料、印刷製本費、通信運搬費、広告宣伝費、消耗品費、施設改修費、機器購入費、委託費、人件費(当該事業に従事する業務従事者の給与)等
管理的経費	<ul style="list-style-type: none">・役職員の人件費等や管理部門などの管理的経費、事務所の家賃等に要する経費で、当該業務に要する経費として特定することが難しいものの、一定の負担が生じている経費、又活動を実施するための調査費等です。・助成額の最大20%とします。・申請事業の経費として特定することが困難な費用については、他事業と按分して、算出根拠を明らかにしてください。

※ 人件費を計上する場合は人件費水準をWebサイト等で公開する必要があります。
(積算の手引き P.4)

■ 助成対象外になる経費

積算の手引き P.9から一部抜粋

- ファーストクラス、スーパーシート、プレミアムエコノミー、グリーン車などの特別料金
- 会議費の範囲を逸脱し、社会通念上、接待交際費に当たるもの
- 個人または団体に贈与される寄付金、義援金及び贈呈品等
- 退職金共済の掛け金
- 業績連動型の賞与
- 賃貸契約時に支払う敷金・保証金
- 土地・建物購入費*

上記以外の費用であっても、事業目的に沿わない場合などには、減額または対象外となる可能性があります。判断が難しい場合など、不明な点がありましたら、事前にご相談ください。
また、仮に実行団体に内定した場合も資金計画の修正を求める場合がありますのでご注意ください。

*建物購入費

建物は賃貸を原則とし、購入する場合は、事業目的の達成のために必要不可欠であり他に代替手段がない場合に限り助成対象とします。

■ 申請から選定までの流れ



■ 申請書類書き方講座、個別相談について

<申請書類書き方講座>

見慣れない用語や項目が多くて書き方がよく分からない……

分からないことを質問したり、書き方のポイントを確認できる講座です！

- 開催日時:2024年4月18日(木)14:00~17:00
- 場 所:なは市民活動支援センター2階 会議室1
- 申込方法:公募要領 P.15 参照

<個別相談>

- 相談期間:2024年4月12日(金)~5月16日(木)17:00
- 申込方法:公募要領 P.15 参照

本説明会の内容は公募要領・積算の手引きの一部です。

申請にあたっては公募要領・積算の手引きの内容を十分ご確認ください。

■ 申請方法



Step1: 申請書類提出の前に、フォームよりエントリーを行ってください。

Step2: 「申請に必要な書類(公募要領 P.14)」を
郵送 及び メール(両方必須)にてご提出ください。

- 締め切り: <郵送 及び メール> 2024年 5月 17日(金) 17時 必着
- 郵送先 : 〒903-0824 那覇市首里池端町34 2F(公財)みらいファンド沖縄 宛
- メールアドレス: protectdignity@mirairfund.org

6. 質疑応答
